



AICJ NEWSLETTER

2021
July

AICJ中学・高等学校 〒731-0138 広島市安佐南区祇園3丁目1-15 TEL:082-832-5037

本校は、2009年に西日本第1号の国際バカロレア（IB）DP認定を受けた一条校で、生徒はグローバル社会のリーダーを目指し、学内外で様々な活動に取り組みます。

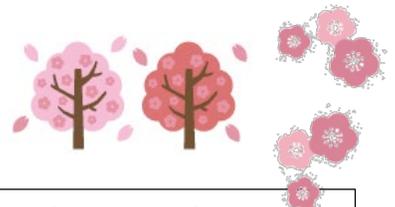
コロナ感染予防に努めながら入学式・卒業式を挙行



長引くコロナ禍の中、去年は中止となった高校卒業式が、今年は、3月1日に予定通り挙行され、卒業生が巣立っていきました。コロナ禍の中での進学ではありますが、また以前のようなキャンパスライフが一日も早く送れるように祈るばかりです。



卒業式はSTU48の皆さんからのサプライズ企画もあり、テレビ放映もされました。写真は、STUの皆さんと在校生で書き上げた寄せ書きの旗です。



4月7日に、中学・高校合同の入学式が執り行われ、新たに多くの新入生を迎えることができました。代表して新中1・新高1の2名の生徒が、共に力強い決意を表明してくれました。

卒業式・入学式共に、換気や、入場者の検温・手指消毒などにご協力いただきました。

今年も大盛況のAICJオンライン個別学校説明会開催中

昨年からの新型コロナウイルス感染拡大に伴い、次々と学校説明会が中止になっていく中で、本校ではいち早くオンラインでの学校説明会に切り替えてきました。しかも、一斉配信ではなく、事前に時間指定ご予約いただき、各ご家庭と個別にお会いしてお話をしています。すでに、今年も春から夏までに8回の開催を予定し、開催しています。毎回、申込フォーム開設からすぐに定員一杯となるため、度々増設を繰り返しています。



個別対応するスタッフ（昨年写真）



AICJの1階フロアーへ自動お掃除ロボット「Jえーん」登場

生徒の皆さんにも愛着を持ってもらえるようにAICJの頭文字の「J」を取って「Jえーん」と名付けました。



本校は、新校舎になって今夏で丸5年を迎えますが、学校には珍しく、生徒も教職員も土足で校内に入りますので、各フロアーはフラットでバリアフリーです。この度、試しに1階フロアーに自動お掃除ロボットを設置しました。誰もいない廊下を一人せつせと勤勉にホコリを吸い込んでいく様子は、見ていて愛おしさを感じます。日々ホコリを胸に、頑張って校内を綺麗にしておもうと思います。



時々開いた玄関の扉から庭に出てしまったり、部屋に閉じこめられたりするのが心配です。(笑)



GWを前に、全校生徒が遠足に行ってきました

コロナ禍で昨年からの多くの学校行事が中止延期となる中で、久々のイベントを楽しみました。



中1は、大久野島へ。
ウサギと戯れました。

中2は、倉敷へ。美観地区を訪問。川舟に乗る。



高2は、浜田へ。しまね海洋館アクアスを満喫。



高1は、福山みろくの里へ。アトラクションで興奮。



中3は、宮島へ。水族館みやじマリンでの一枚。



高3は坂の町尾道へ。食べながら町中を散策。



第74回広島県高校総体 サッカー女子の部 初優勝

昨年度は、新型コロナウイルス拡大に伴い、中止となった高校インターハイでしたが、今年度は、各方面からのご尽力をいただき、途中中断することもなく最後まで開催していただきました。始動1年目の夏には予選2回戦敗退という結果に悔しい思いをしましたが、3年目にして広島県予選での初優勝を飾ることができました。無観開催の中、決勝はネット配信もあり、皆様のご支援が背中を押してくれました。関係者及び保護者の皆様方に心よりお礼申し上げます。中国大会では、全国大会への枠が1校である中、惜しくも決勝で敗れてしまいましたが、全国でも屈指の強豪作陽高校に3回目の対戦で最も近づいた一戦(1-2)でもありました。冬の選手権大会では、3年連続全国大会出場と上位進出を目指します。



県内の中高生からアート作品を募集し展示会を企画・開催

Artificial realism 3.0と銘打った展示会の様子



本校生徒が、海での清掃活動の際に拾ったゴミを材料にしたアート作品を制作しました。ゴミをアート作品へと作り変えることで、環境問題に違う側面からアプローチするきっかけになりました。また、それを発信する側になることで、問題をより理解・深化させる経験となりました。

5kgにも及ぶ無数のゴミで作られた大きな手のオブジェ



海岸での清掃活動



すぐ近くにゴミ箱を設置し、ごみ箱があっても海や川に、ゴミを捨ててしまう人間の軽率さを表現しています。

県内の中高生からアート作品を募集し、展示会を開きました。それぞれのメッセージが込められたポスター・写真・立体作品は個性の光るものばかりで、観たり触れたり、シェアしたりしながら、多くの人と環境問題について考えるイベントとなりました。



このプロジェクトで、第9回イオンエコグランプリ普及・啓発部門2次審査へ進出しました。